



令和3年度 神奈川県立厚木東高等学校
第76回入学式 校長式辞

校庭のイチョウが生き生きと芽吹き、花壇の色とりどりの花々が、新たなスタートラインに立ったみなさんを祝福しています。ようこそ厚木東高校へ！

ただいま5クラス、200名の入学を許可いたしました。希望の春、この良き日に、規模を縮減したとはいえ、「第76回入学式」を挙行できますことを大変嬉しく思います。人生の新たな一步を踏み出そうとしている200名の諸君。厚木東高校へのご入学誠におめでとうございます。本日皆さんを東高の第76期新入生として迎えることを、教職員一同、そして上級生一同、とても楽しみにしていました。

令和2年度は、平凡な毎日のありがたさが身に染みる1年間でした。思い起こせば、1年前の3月、長い受検期を前にして、全国で学校の臨時休業という非常事態に陥りました。そのまま4月になり、中学3学年の新学期を迎え、皆さんはどんなにか不安だったことでしょうか。まだ習っていない新しい学習内容に、家庭で主体的に取り組むのは大変な苦労があった事と思います。各種学校説明会も十分に実施されない中、皆さんは感染拡大防止行動に努めながら、必死に進路調べ学習をし、受検勉強に取り組みました。そして、見事本校への合格を果たされました。皆さんのこれまでの頑張りと、ご家族の皆さまのサポートに心からの敬意を表します。

昨年度の入学式には、保護者の方々をお招きすることができませんでした。先日、緊急事態宣言が解除されたとはいえ、まだまだ予断を許さない状況であり、たくさんの制限がございます。各ご家庭に1名の保護者、狭い体育館と、

ご不自由をお掛けします。吹奏楽部の演奏や在校生による校歌披露、来賓の皆さまのご祝辞など、本来の形で実施できないことは大変残念ですが、本日、76期生の皆さんを手塩にかけて育ててくださった保護者の皆さまに、入学式の晴れ姿を見ていただけることを大変喜ばしく思っています。

本校は、創立116年目となる、地域の伝統校です。明治39年の郡立女子実業補習学校に始まり、関東大震災や、太平洋戦争など、幾多の苦難や学校存亡の危機に見舞われながらも、名を変え、形を変え、場所を変え、明治・大正・昭和・そして平成の歴史を、誇り高く生き抜いてまいりました。広大な敷地と豊かな自然環境に恵まれ、地域の皆さんに愛され、親しまれてきた本校は、穏やかで落ち着いた校風のもと、これまで世に送り出した卒業生の数は2万5千609名に上ります。この学校の一員となったことを、どうかみなさん、誇りに思ってください。

神奈川県の高校改革計画により、本校は、令和6年度から、お隣の厚木商業高校と再編統合し、新しい学校として生まれ変わることが決まっています。ですので、皆さんは厚木東高校に入学し、厚木東高校を卒業する最後の学年となります。皆さんの東高での3年間は、皆さんの人生においてかけがえのない宝となるよう職員一同全力でサポートします。

「予測不能な未来の社会を自立して幸せに生きて行ける生徒を育てること」、それが本校のスクールミッションです。そこで、本校が育てたい生徒像として「他者を思いやり、自己実現に向けて果敢に挑戦する生徒」を掲げています。そして、その達成のために、皆さんに次の3つの能力を身に付けてほしいと考えています。

- 1つ目は「自ら課題を見つけ主体的に学び続ける能力」です。
- 2つ目は「人と繋がり社会に貢献する能力」です。
- 3つ目は「進路実現と社会的自立に向かう能力」です。

コロナ禍により、社会が大きな転換期を迎えていることが顕になりました。AI に仕事を奪われると恐れるよりも、AI にできない仕事で生き残ってやろうというマインドを時代が求めています。何か新たな課題に直面しても、仲間と力を合わせ、解決に向かおうと力強く生きる力を、時代が求めています。

皆さんには変化に負けないマインドを持った人財に育ててほしい。自分の適性を自分で把握し、自分のキャリアアップの方向を自分で決め、自分の意志でキャリアチェンジしていく自立した大人になってほしい。自分の人生に責任を持ち、社会にどのように貢献していくのかは自分で決めなければなりません。誰かが何かをしてくれるのを待ってはいけません。キーワードは自立。変化する責任は自分にあります。どうか、東高で過ごす3年間で、様々な人とかわり、自分を知り、自分の大好きとそれを活かせる自分の生きる道と出会ってください。職員一同みなさんのそれぞれの出会いを支援します。

どうか、保護者の皆さまにおかれましても子どもたちの応援団として、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

明治生まれの文豪、武者小路実篤は、「人見るも良し、人見ざるも良し、我は咲くなり。」と言いました。人が見ていようが、見ていまいが、自分は一輪の花として咲く。大切なのは、自分が咲くこと。他人の目や評価に振り回されることなく、自分の花を一生懸命に美しく咲かせること、それが大事だという意味です。

武者小路はまた、こうも言いました。「君は君、我は我なり、されど仲良き。」赤い花青い花、大きい花小さい花、いろいろな花が咲こうとしています。互いの個性を認め合い、異なる価値観を持った相手をいたずらに拒否することなく、相いれないと思っても、自分の思いを言葉にして伝え合うことで、よりよい関係を探ってください。時には、自分以外の花がとても素敵で、うらやましく思うこともあるでしょう。でも、どんな人生であっても、苦しみを伴わない人生はありません。互いに励まし合い、助け合うことで、私たちは互いの人生をより価値あるものにすることが出来ると思うのです。だから、相手の立場でものを考えられる想像力を育ててください。そして、他者に対して思いやりの心を持つ大人を目指してください。

厚木東高校は、全ての教育活動において「学び続ける力」「人とつながる力」「自立に向かう力」の3つの力を育成し、生徒の主体性を伸ばします。将来自分は何をして生きていくのか、3年間真剣に考え抜きながら、「厚木東でチャレンジ！」のスクールモットーのもと、いろいろなことに挑戦してください。そして、みなさんが一人ひとりが、将来美しい花を咲かせるために、根を伸ばし、莖を太くしなやかにし、葉を広げて、光や風を全身に受け、キラキラと輝いてください。

最後に皆さんの入学をもう一度心から歓迎して、私の式辞とさせていただきます。入学おめでとう！

令和3年4月7日

神奈川県立厚木東高等学校
第35代校長 村越みどり

さくら公園から本校を望む



入学式看板と PTA 環境美化委員さんの寄せ植え
華道部の生けた式花



新入生代表の言葉（畑中七美さん）



学校長式辞





76期1学年団紹介



晴天の下、クラス写真撮影を終えて

タンポポー輪に蝶





東南側 体育部部室棟脇の見事な桜

残念ながら入学式の4月7日には桜はもう終わってしまっていました。来年度またぜひ、ご覧になってください。

新入生代表は「自分の選択に責任を持って行動できる自立した人間に成長していきたい。」「自分が受けた優しさを他の誰かにつなげていけるような人間になりたい。」と、新たな挑戦への決意を述べてくれました。

今年度は、保護者の皆さまとともに、新入生のスタートを祝うことができました。とても素晴らしい入学式でした。

